

中学校図書館におけるキャリア教育支援 －愛媛県の市立学校を事例として－

松下 理紗子

キャリア教育とは児童生徒に望ましい勤労観や職業観を身に付けさせ、自分自身の生き方を主体的に選択する能力や態度を育てることを通じて、社会での役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していくことを目指す教育である。一方で学校図書館とは、学校図書館法第 2 条において資料を収集・整理し、児童生徒や教員の利用に供することで「学校の教育課程の展開に寄与する」と規定されており、小中高の各学校に必ず置かれている。キャリア教育において豊かな指導が行われるためには、職業に関する学びだけではなく人生上の諸リスクへの対応や生き方、労働環境まで広く学べ、いつでも利用できる資料が必要である。学校図書館はこれらの資料を収集・整理し、いつでも利用できる形にして提供することが求められる。

そこで本研究では、学校図書館とキャリア教育の連携について現状と課題を明らかにし、学校図書館におけるキャリア教育支援の在り方を考察することを目的として、愛媛県 A 市の中学校を対象に、学校司書への聞き取り調査とキャリア教育担当者への質問紙調査を行った。

調査結果は、①読書センターとして生き方を考える読書支援、②学習・情報センターとして生徒が自由に調べられるように進路学習資料を提供する、という 2 つの観点から分析を行った。その結果、(1)仕事、生き方、学習の棚を作り、コーナーで資料提供を行っていること、(2)現状学ぶことと働くことが関連づけられていないこと、(3)職業に関する資料を進路資料として十分所蔵しているが、具体的な進学先の情報は学校側、教員が持っていること、(4)マナーや礼状の書き方に関する資料は活用意識があるもののやや不足していること、(5)生徒の学習成果をまとめたものを学校図書館に置く意識は低いこと、(6)教員は主に職業の調べ学習への資料提供をキャリア教育支援としてとらえ、読書を通じて生き方を考えさせるという役割をあまり認識していない、という 6 点が特徴として明らかとなった。

これらのことから、学校司書がキャリア教育という視点から学校図書館の活動をとらえ直し、キャリア教育と連携して資料提供を行い、それぞれの資料を結びつけるためには、以下の 4 点の課題を改善していくことが必要であると考察された。(1)進路やキャリア教育に関する資料について、公開されている資料リストを参考にすること、(2)進路・生き方に関するパスファインダーなどのツールを作成すること、(3)生徒への利用を促すために、直接生徒に情報発信する機会を学校の活動の中に位置づけること、(4)教員が学習成果を蓄積する場や進学先の情報を置く場所として、学校図書館を認識すること。

(指導教員 平久江祐司)